



技工士学校卒業おめでとう

附属歯科技工士学校長 岩久正明

晴れて本校第23期生として卒業を迎えられた諸君に心から祝福を送ります。

卒業式に並んだ諸君の、厳しく引き締まった顔、知的で奥深い落ち着きを感じさせるまなざしを眺め、この2年間諸君が本校で何を学んでくれたかを十分に感じ取ることができ、この2年間で共に過ごすことのできたことにしみじみと喜びを感じます。

思い起こせば、丁度2年前の4月7日の入学式で、諸君がいよいよ新しい社会に踏み入る期待とこれまでとは全く違う世界への不安の相半ばした、しかし優しく穏やかなあどけなさのこの顔で私の話しを熱心に聞いてくれた様子がつい先日のように感じられます。

まだ肌寒く、新潟では最も早咲きで有名なはずの、諸君の学校の窓のすぐ前の駐車場の桜もまだやっと蕾みが膨らみ始めたかと感じさせるそんな時期でした。本校の入学者は、北は北海道から南は沖縄に至るまで全国に及びますが、諸君の中にも太陽に恵まれた南からの入学者もあり、新潟の冬を耐えてくれるか心配でした。そして、この冬は例年にない寒さと降雪となりましたがしっかりと乗り越えて卒業を迎え、しかもすでに国家試験にも本校の永き伝統を守って全員揃って合格してくれました。

2年間で瞬く間に過ぎていった感じが致しますが、それが決して容易な2年ではなかったことを

諸君の厳しく成長した顔が物語ってくれています。

勿論、諸君がこの2年間で身に付けたものは、その専門全体から見ればほんの入門、長い人生の中でやっと1里塚に達した程度でしょう。しかし、諸君が今後進むべき人生のために立派な専門の羅針盤を確実に手に入れたことは間違いのない事実です。方向を見誤らず、周りからの情報を積極的に貪欲に取り入れて、知識・技術・医療人としての人間性を磨いて行けば必ず人生は開けます。

一層人間関係の複雑化する文明社会や高齢社会の21世紀の始まりの中で、諸君の存在意義はいよいよ高くなります。人間の生きる意義は何でしょう。長寿の意義は何でしょう。ただ、黙ってベッドに寝たまま天井を見て息をしていることが人間の尊厳ではないはずで。

「美味しく食べ、楽しく話す心豊かな長寿」をまっとうするために諸君に寄せられる期待は極めて大きいものがあります。食べること、話すこと、そして周りの人々に不快感を与えないように自然の美しさを取り戻すことに共に手を携えて努力しましょう。

諸君が、医療人として我々の仲間入りしてくれたことを感謝します。

時として、恩師、先輩、友人の門を叩くことを忘れずに。